

平成28年8月30日(火)
先進・優良事例の展開促進に
関する地方懇談会 発表用資料

播磨圏域連携中枢都市圏の取組

姫路市

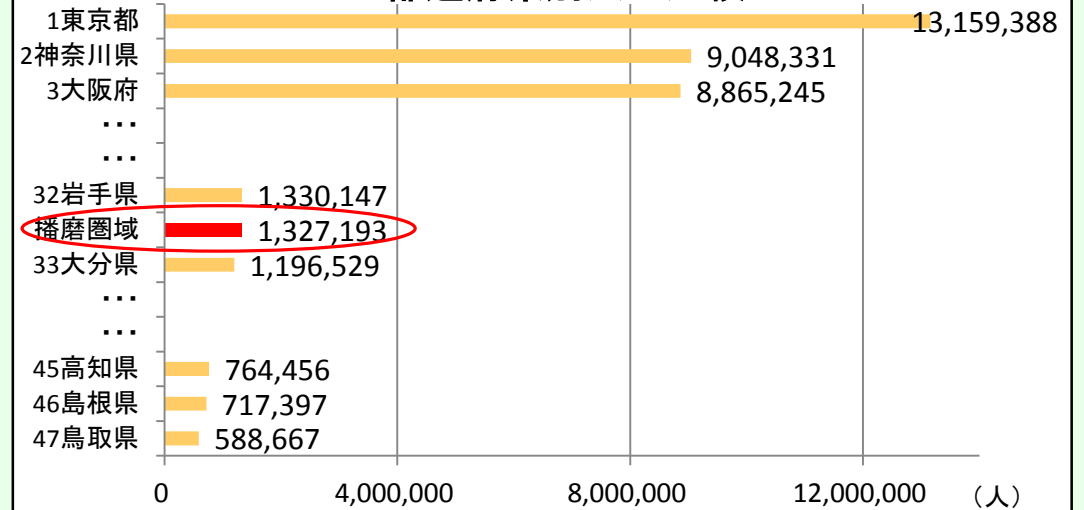
播磨圏域連携中枢都市圏の現状

播磨圏域を形成する各市町

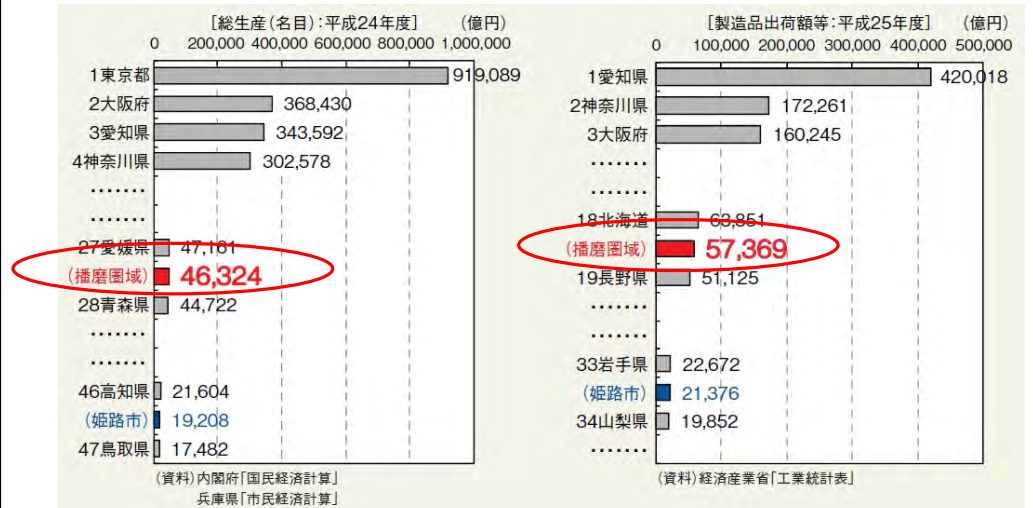
播磨圏域の8市8町



都道府県別人口比較



都道府県別経済規模比較

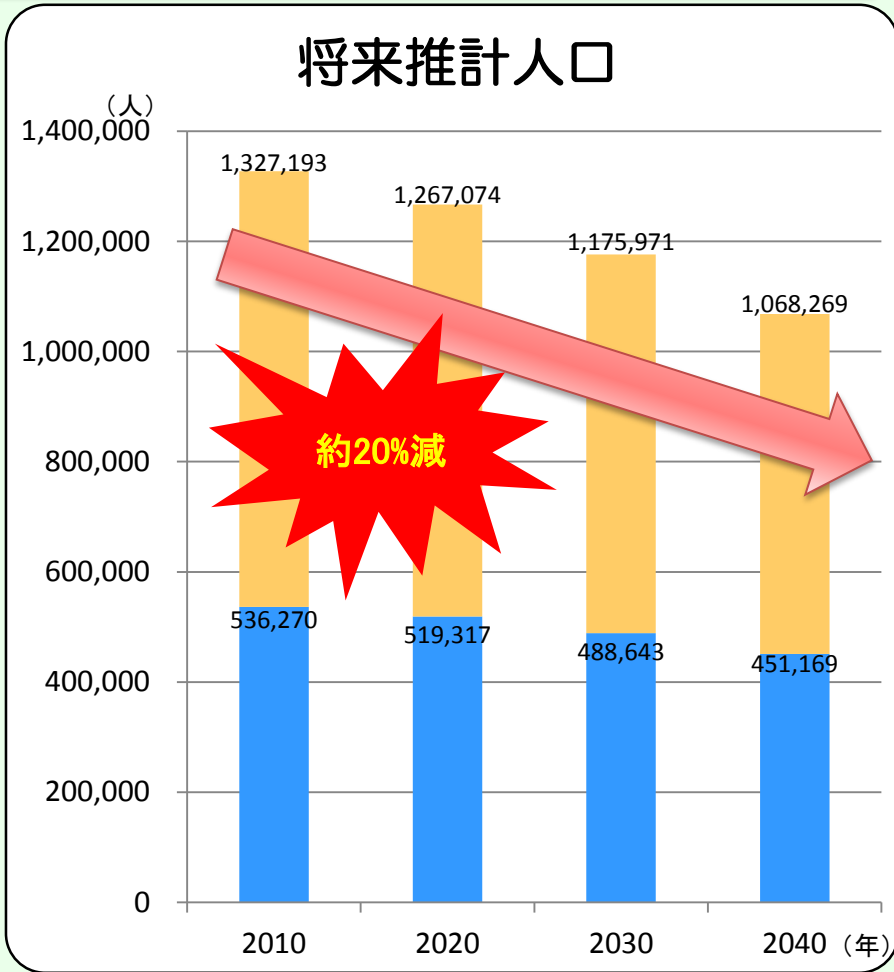


播磨圏域は、姫路市、相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍粟市、たつの市、稲美町、播磨町、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町の8市8町で構成される。

播磨圏域における人口・総生産額・製造品出荷額等は都道府県別の順位にすると、それぞれ**33位**、**28位**、**19位**に相当する。

播磨圏域連携中枢都市圏の現状

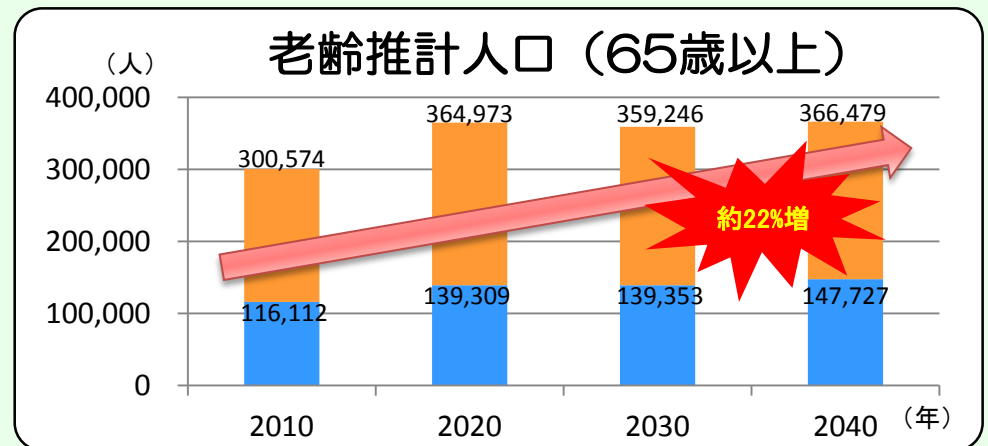
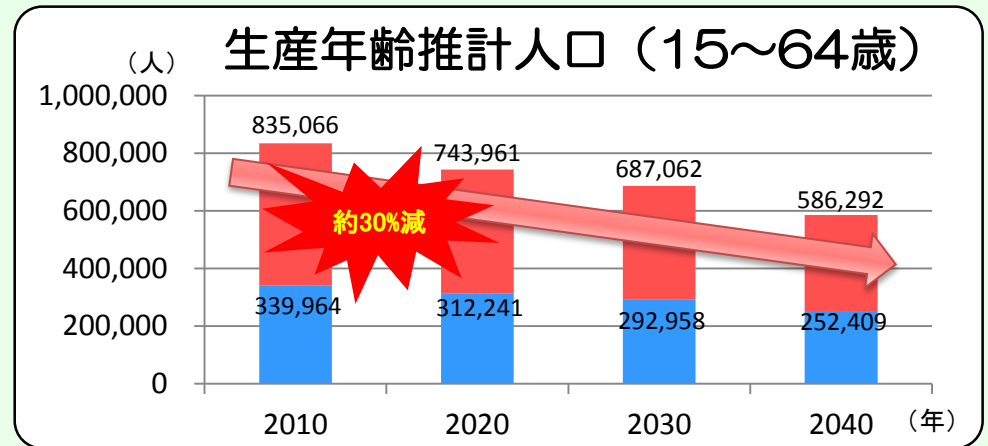
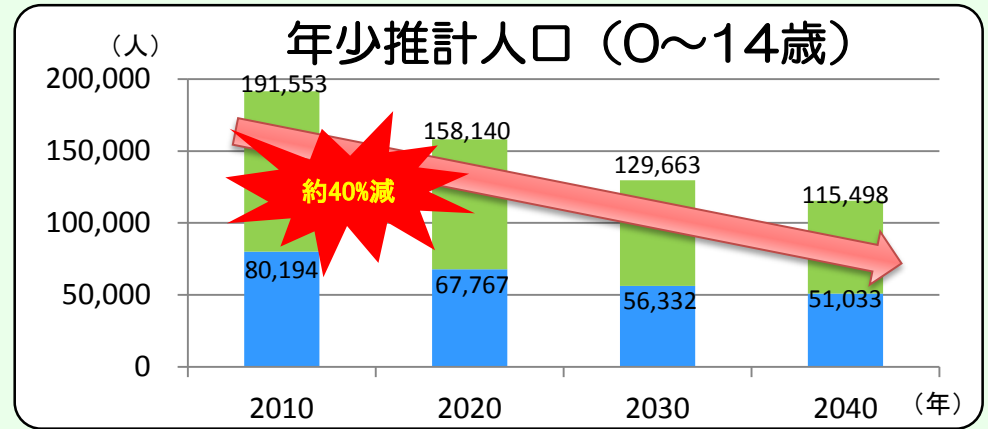
姫路市及び播磨圏域の将来推計人口



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月公表)
 ※棒グラフ中、青色の箇所は姫路市の将来推計人口

播磨圏域(8市8町)における将来推計人口は今後30年間で約26万人減少すると予想されている。

年少人口、生産年齢人口が減少する一方、高齢人口は増加し、少子高齢化に一層の拍車がかかると予想され、姫路市においても同様の傾向である。



人口減少・少子高齢社会の到来

50年で人口が3割減・高齢化率が倍増

【2010年】

人口
12,806万人

65歳以上の
高齢化率
23%

3割減

倍増

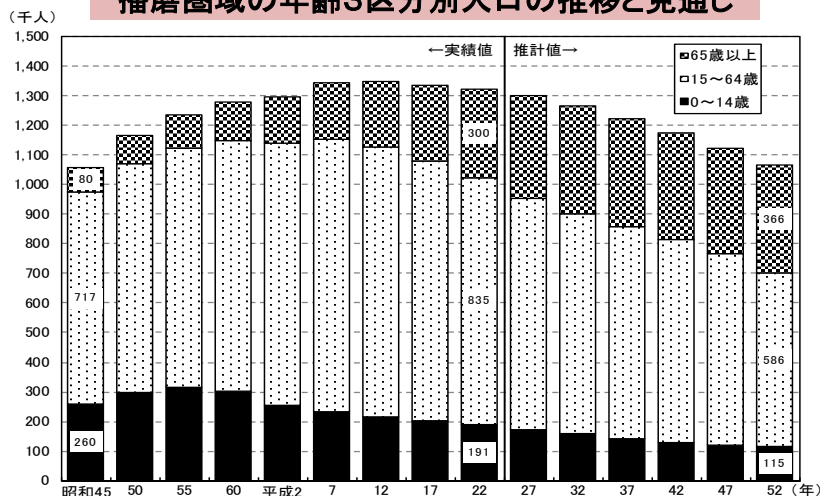
【2060年】

人口
8,674万人

65歳以上の
高齢化率
40%

国立社会保障・人口問題研究所発表(平成24年1月)

播磨圏域の年齢3区分別人口の推移と見通し



(資料)総務省「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」

播磨圏域の人口変化試算

市町名	2010年	2040年	若年女性 変化率(%)
姫路市	536,270	440,491	-33.6
★相生市	31,158	19,766	-55.4
加古川市	266,937	216,001	-38.3
赤穂市	50,523	36,562	-44.4
高砂市	93,901	72,448	-43.2
★加西市	47,993	33,598	-54.7
★宍粟市	40,938	24,947	-55.0
たつの市	80,518	61,844	-39.9
★稲美町	31,026	20,759	-53.7
播磨町	33,183	24,726	-44.9
★市川町	13,288	7,809	-54.7
★福崎町	19,830	15,604	-51.3
★神河町	12,289	7,055	-61.7
太子町	33,438	30,969	-20.0
★上郡町	16,636	9,723	-65.1
★佐用町	19,265	10,043	-68.2

※★は「消滅可能性」が高いとされた自治体。若年女性は20~39歳
変化率は2010年と40年時人口を比較
※日本創成会議・人口減少問題検討分科会発表(平成26年5月)